

◎サポーターはっとニュース

「サポーターはっとニュース」では、障がいに関する制度や研修会開催、ボランティア募集など、日ごろの活動に役立てていただくための様々な情報をご紹介します。

第 29 回目は、作文・ポスターコンクール作品募集のお知らせです。

【第 29 回】心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスターコンクール

障がいの有無にかかわらず、誰もが地域や職場・学校などでともに支えあって暮らす「共生社会」の実現を目指して、障がいのある人となない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障がいのある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」を募集します。

◎募集期間 平成 29 年 7 月 3 日（月）～9 月 8 日（金）まで

※応募者全員に参加賞をプレゼントします！

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、賞状と副賞を贈呈し、各部門の最優秀作品は、内閣府が主催する全国の審査会に推薦します。

応募方法など、詳しくは熊本市ホームページまたは障がい保健福祉課へお問い合わせください。

◆平成 28 年度 受賞作品を一部ご紹介します！

・心の輪を広げる体験作文

【小学生部門】最優秀賞 ※内閣府全国審査 佳作受賞

「お兄ちゃんのこと大好きだから」 熊本市立碩台小学校 6 年 古川 理絢（まひろ）さん

私には二人の兄がいる。一番上の兄はダウン症という障がいをもっている。私と二番目の兄はよくけんかをする。けんかの内容は小さい子がやるような単純なことだけど、毎日のように言い争いをしている。上の兄は、そんな私たちを見て、悲しい顔をする。

私と二番目の兄は、一番上の兄を「兄」ではなく、下に見ているところがある。どうしてかという、私たちにできることができなかったり、勉強が分からなかったりするからだ。私はいつも、一番上の兄を手足のように使ってしまう。

「鉛筆取ってきて。」

「水持って来て。」

と。やさしい兄は、いやいやながらも言うことを聞いてくれる。時々、やってくれない兄に、

「何でしないの。頼んだよね。」

と、厳しい口調で問いつめてしまうことがある。私は、自分の都合で兄を責めてしまうのだ。そんな時母からは、

「自分のことは自分でしなさい。」

と注意されてしまう。するとますます、兄に強く当たってしまう。兄をにらみつけ、冷たい態度をとる。私がどんな態度をとっても、兄はさりげなく私に、

「かわいいね。大好きだよ。」

と笑顔で言ってくれる。

私は、兄にずっと聞きたかった事がある。それは、自分が障がい者だとわかっているかということだ。そのことをさり気なく聞いてみると兄は、

「ぼくは、アルツハイマーっていう病気でしょ。」
と言った。真剣な話題だったのに、思いがけない答で、その場にいた家族は大笑いした。
兄は、テレビでアルツハイマーの事を見て、自分の障がいと重ねていたのだ。兄は自分の障がいのことをよく分かっていない様子だった。

私が一年生だった時、上の兄は六年生だった。兄は特別支援学級に在せきしていた。なぜ、みんなと一緒にいるクラスではないのか疑問に思った。私は時々思う。兄に障がいがいなかったら、勉強を教えてくれるのかなとか、今のように優しい兄のままなのかな、など考えてしまう。友達から、兄の話を聞かされる時は、とてもきんちょうする。何か悪い話ではないかと想像するからだ。でも、友達から聞く話はどれも兄に「ありがとう。」という気持ちが伝わる話だった。泣いていたら、似顔絵をかいってもらって元気づけてくれたとか、おもしろいことをして笑わせてもらったなど誰かを笑顔にする話ばかりだった。

近くの商店街に兄と一緒に買い物に言った時、兄はたくさんのお店の人から、声をかけられていた。この商店街は兄の通学路で、毎日通っているうちに顔見知りになったらしい。店の人と堂々と会話をしている兄を見ると、とても誇らしく思う。

いつも誰にでも笑顔で優しいお兄ちゃん。いつもごめんね。いつもありがとう。強くあたっているけど、お兄ちゃんのこと、
「大好きだよ。」

・障害者週間のポスター

【小学生部門】最優秀賞



「ぼくにつかまって」

熊本大学教育学部附属小学校 4年

佐藤 世隆さん

【中学生部門】最優秀賞



「助け合おう あたたかい心で」

熊本市立出水中学校 2年

花岡 彩華さん

*熊本市ホームページにはその他部門や過去の受賞作品を掲載しています。ぜひご覧ください。